

土砂災害について

傾斜が急な山が多い日本は、台風や大雨、地震などにより、がけ崩れや土石流、地すべりなどの土砂災害が発生しやすい国土環境にあります。

土砂災害は、一瞬にして尊い生命や家屋などの貴重な財産を奪うなど、甚大な被害をもたらします。土砂災害の被害を防ぐためには、一人ひとりが土砂災害から身を守るように災害について知り、日頃より備えておくことが大変重要です。

土砂災害防止法について

土砂災害から住民の生命を守るため、災害のおそれのある区域を明らかにし、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地抑制、既存住宅の移転促進などをおこなうことを目的とし施行された法律で、佐賀県により調査が実施され、土砂災害警戒区域（通称：イエロー区域）と土砂災害特別警戒区域（通称：レッド区域）の2種類の区域指定がおこなわれました。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

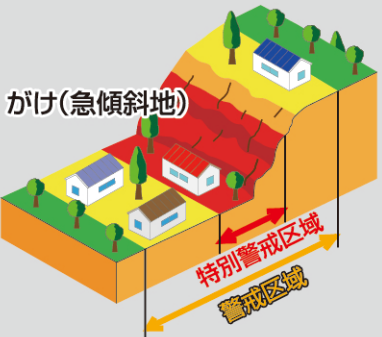


がけ崩れや土石流などの土砂災害が発生した場合、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる土地の区域です。

※防災ハザードマップの土砂災害警戒区域・特別警戒区域は凡例色に変換し記載しています。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

イエロー区域のうち、建築物に損壊が生じ住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる土地の区域です。

土砂災害の種類とその前兆情報

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）	土石流	地すべり
斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。	山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象です。	斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。
前兆現象	前兆現象	前兆現象
<ul style="list-style-type: none">● がけに割れ目が見える● がけから水が噴出する● がけから小石がバラバラ落ちてくる	<ul style="list-style-type: none">● 山鳴りがする● 川の流れが濁り、流木が混ざりはじめる● 雨が降り続けているのに川の水位が下がる	<ul style="list-style-type: none">● 地面にひび割れができる● 沢や井戸の水が濁る● 斜面から水が噴き出す
		

土砂災害と雨量の関係

- 雨が降り続けて地中にしみ込んだ水の量が多いほど、土砂災害の発生確立とその規模が高まります。
- 特に、雨が1時間に20mm以上、降りはじめから100mm以上になると十分な注意が必要です。
- 雨がやんだあとと少しおくれて災害が発生することもあります。大雨のあとは、何日か注意が必要です。

土砂災害警戒情報と避難

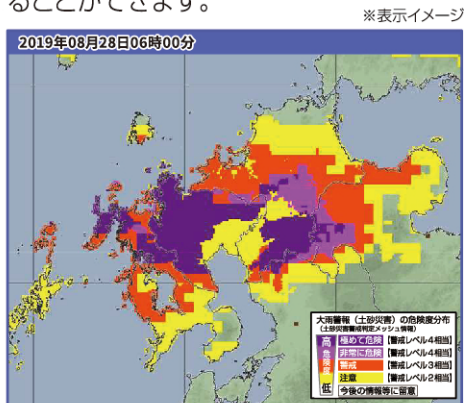
土砂災害警戒情報は、大雨警戒の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、佐賀地方気象台と佐賀県が共同で作成・発表する情報です。

土砂災害警戒情報は、市町村長が避難勧告を発令する際の判断材料となる重要な情報ですので、土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、自主避難の判断を行ってください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、避難活動を行ってください。



避難のタイミングをつかむための情報(土砂災害)

気象庁のホームページの土砂災害警戒判定メッシュ情報では、土砂災害の危険度が高まっている地域を5Km四方の領域ごとに5段階で色分け表示しています。避難にかかる時間などを考慮して、2時間先まで予測値を用いており(10分ごとに更新)、大雨警戒(土砂災害)、土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報などが発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。



色が持つ意味	想定状況と住民がとる行動
極めて危険	過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する状況。 命に危険が及ぶ土砂災害がすでに発生しているもおかしくない。 この状況になる前に避難を完了しておく。
非常に危険	命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況。 遅くともこの時点で速やかに避難を開始する。
警戒 (警戒報級)	避難の準備を整え、早めの行動を心がける。 高齢者等は速やかに避難を開始する。
注意 (注意報級)	メッシュ情報をこまめに確認する。 今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。
今後の情報 等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。

<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>



「極めて危険」(濃い紫色)が出現すると、命が奪われるような土砂災害がすでに発生しているもおかしくない状況となります。このため、高齢者の方などは遅くとも「警戒」(赤色)が出現した時点で、一般の方は「非常に危険」(薄い紫)が出現した時点で、土砂災害警戒区域などより外の少しでも安全な場所へ速やかに避難することが大変重要です。
また、このメッシュ情報に関わらず、市から避難情報が発令された場合は速やかに避難してください。

土砂災害からの避難方法

逃げ方は、立退き避難が基本です

安全な場所まで立退き避難

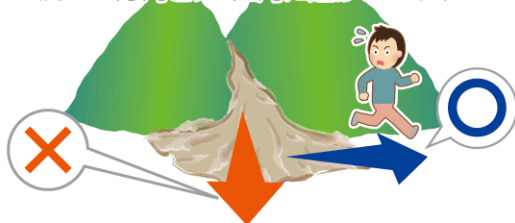
レッド・イエローゾーンは崩れる前に早期の避難を！

※土砂災害警戒情報は避難の判断合図です。

直角に逃げましょう！

土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。

土砂の流れる方向とは、直角に逃げましょう。



土砂災害時の屋内避難

土砂災害による被害の多くは木造建物の1階で被災しています。

災害では早めの避難が重要ですが、どうしても避難場所への移動が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は、家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋の2階など)に避難しましょう。

土石流の危険性がある場合は、早めの立退き避難を行ってください。

